

# 支援学校産ブドウ 初の商品化

網走ビール「サイダー」 Rimo「ジェラート」



ブドウ栽培に携わり、初商品の「あばしりブドウサイダー」を手にする生徒ら

【網走】日体大付属高等支援学校の生徒たちが育てたブドウを使ったサイダーとジェラートが、この週末から市内で販売される。同校の畑で栽培するブドウの商品化は初めて。手入れか

## 生徒が手入れ・収穫 あすから市内販売

ら収穫まで携わった生徒たちは「暑い日にも畑に通った成果。たくさんの人に学校のブドウを味わってほしい」と呼びかけている。

(池野上通)

商品には、2020年5月に植えた山ブドウ「アムレンシス」を使った。昨年10月に96%を収穫し、生徒たちが手作業で茎から実を外した。果実は空知管内浦臼町の加工場で搾汁。43%の果汁を使って、網走ビールと、市呼人のジェラート店「Rimo(リモ)」が商品開発にそれぞれ協力した。

網走ビールは「あばしりブドウサイダー」を千本製造した。

サイダーは22日から道の駅「流水街道網走」で、1本(340円)250円で販売する。同日の午前中には生徒たちが店頭で商品を購入する。

今春にはリキョール商品「オホーツク網走山葡萄サワーの素」数千本も販売する予定だ。インターネット販売や市のふるさと納税の返礼品などとして、同校の活動を全国に発信する。

Rimoはジェラート「網走産ぶどうのソルベ」を製造。昨年12月に東京で開かれた物産展で販売すると、大好評を得たという。金子由伸さん(3年)は「大人も食べやすいさっぱりした味わい」と喜んだ。ソルベは今年21、22日にRimoで特別販売される。

同校はワイン醸造を目指し、市内2カ所の畑で1200本のブドウの木を栽培している。昨秋、試験栽培の木から予想を上回る収量が得られたことから、今回の商品化に着手。今後も多品種での商品展開を進めていくほか、来年にはワインを醸造するブドウが収穫できる見込みだ。